

## 垂直分布

北海道の気候は、温帯気候の北限と亜寒帯気候の南限であるため、夏にはしばしば30度を越え冬には-30度以下になる内陸性気候帯にあります。

大雪山はこのような気候帯の真中にあり、一般的には標高が100m上がるにしたがって気温は0.6ほど下がるため、温帯気候から標高とともに亜寒帯気候、寒帯気候に移行するのです。

大雪山の標高2,000m付近で、年平均気温は-3.8度程度、これはアラスカの中北部と同じであり、すなわち、黒岳に登ることによって植生的にはアラスカまで歩いたことになるのです。

大雪山の2,000mは、緯度が北にあるため本州の3,000mに匹敵します。本州の3,000m級の山は簡単には登れませんが、ここ黒岳ではリフトを降りて約1時間半で登ることができるのです。

黒岳の植生分布はハッキリとしており山岳部での植物帯の移り変わりをロープウェイ、リフトでも見ることができます。

## ●黒岳の植生



1,800m以上

ハイマツ帯

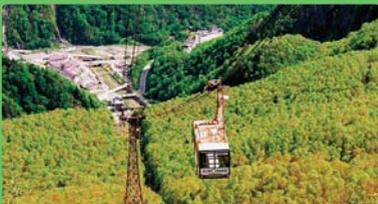
森林限界

1,600m~1,800m

ダケカンバ帯

1,300m~1,600m

上部針広混交林帯



900m~1,300m

針葉樹林帯



650m~900m

下部針広混交林帯

## 層雲峡峡谷

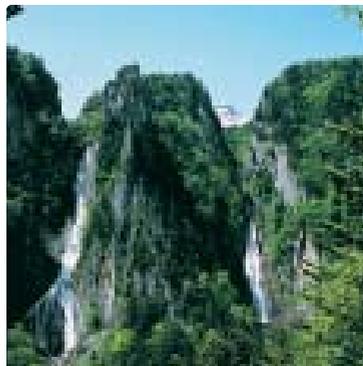
### ●柱状節理

層雲峡峡谷の特色は、何といても20km以上にもおよぶ断崖絶壁の渓谷美です。火山の冷却の際にできた四角あるいは六角の断面を持つ柱状節理の素晴らしさは、他に見ることのできない景観です。



### ●銀河・流星の滝

日本の滝100選にも選ばれ、層雲峡観光の名所です。高さは120mあります。駐車場からはそれぞれの滝しか見られませんが、15分位登った双瀑台からは2つの勇壮な姿を一度に見ることができます。



### ●石狩川と溪畔林

層雲峡周辺、石狩川の両岸はドロノキ、シナノキ、ヤチダモ、カツラなどの広葉樹に占められています。層雲峡は、大雪山を源とする石狩川の浸食によって形成されたものです。



## 大雪山 層雲峡・黒岳ロープウェイ

〒078-1701 北海道上川郡上川町層雲峡

TEL 01658-5-3031 URL <http://www.rinyu.co.jp>

FAX 01658-5-3019 E-mail [soukkyo2@rinyu.co.jp](mailto:soukkyo2@rinyu.co.jp)

北海道の風土・文化誌 ウェブマガジン *カムイミンタラ*

URL <http://kamuumintara.net>



# 大雪山黒岳を 体感しよう!!

大雪山国立公園の北の玄関口にあたる層雲峡。20km以上におよぶ大渓谷と大河石狩川、見上げれば大雪山黒岳が雄大にそびえ立っています。ロープウェイ・リフトからは、その圧倒的な景観はもちろん、森林の移り変わりや、1時間半ほどの登山の間に見られる高山植物の大群落など見所が尽きません。無限の自然体感へいざ出発!!



株式会社 りんゆう観光

## 水平分布と垂直分布

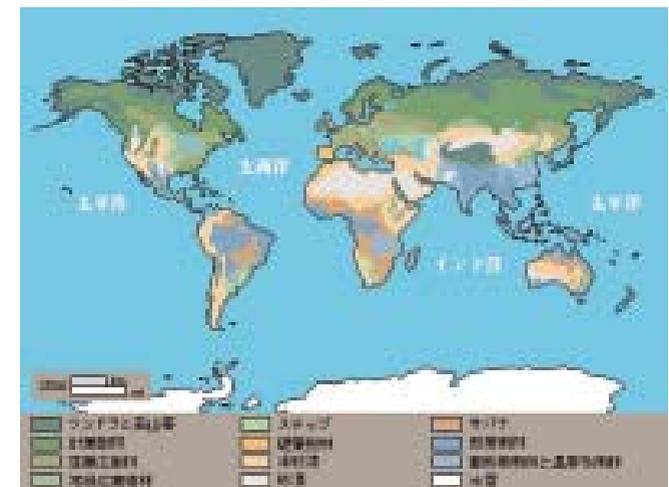
地球上の植生分布には2通りの見方ができます。1つは南北両極に向かって、熱帯・亜熱帯・温帯・冷温帯・亜寒帯・寒帯の各気候帯に対応して帯状に成立する水平分布です。

もう1つは海拔0mから黒岳などの高山にいたる、海拔高度に対応した垂直分布です。

植物群系の分布は気温や降水量といった環境条件によって決定され、よく似た環境下ではよく似た相観の植物分布が見られます。

## 水平分布

### ●世界の植物分布



### ●日本の植物分布



地球上の植物の変化を見るためには、何百km、何千kmと移動しなければなりません。高山では同様の植物変化を見るのに、山麓から山頂に登ることによって見ることができます。その変化を手軽に見ることができるのが、ロープウェイとリフトなのです。

参考資料  
・世界の水平分布/MSNエンカルタ百科事典 ダイジェスト・マルチメディア—植物の水平分布  
・日本の水平分布/東北大学大学院理学研究科附属植物園

# 黒岳体感ポイントを見てみよう

1,520m

ペアリフト

## 黒岳七合目(リフト降場)



上部針広混交林帯

- ・トドマツ
- ・エゾマツ
- ・ダケカンバ
- ・ナナカマド

1,320m

遊歩道

## (リフト乗場)



五合目展望台より  
それぞれ特徴ある山の形を  
観察できます。

エゾシマリス  
黒岳の人気者エゾシマリスは、  
五合目や山頂でも見られます。

1,300m

ロープウェイ

## 黒岳五合目(黒岳駅)



針葉樹林帯  
(エゾマツ)  
(トドマツ)

針葉樹林帯ではありますが、  
一面ダケカンバの林になっ  
ています。以前は針葉樹の  
森でしたが、1954年の洞  
爺丸台風により壊滅的な被  
害を受けました。  
その後、ダケカンバがいち  
早く侵入しましたが、何百  
年後かには再び針葉樹の森  
に戻ることでしよう。

(900m)

ロープウェイ

## (2号鉄塔)



山の景観、植物が  
ガラリと変化

針広混交林帯

- ・トドマツ
- ・エゾマツ
- ・ミズナラ
- ・カツラ
- ・ドロノキ

670m

## 層雲峡温泉街(層雲峡駅)

# 〈黒岳のお花畑〉

1,984m

1,984m (黒岳頂上)



ハイマツ帯

- ・ハイマツ
- ・ウラジロナナカマド
- ・ミヤマハンノキ

登山道

1,800m

## なだれ草地(黒岳九合目)

冬、風下にあたる北東斜  
面は、大量の積雪や雪崩  
などの影響があります。  
背丈の高い大型草本や雪  
崩に強いウコンウツギや  
チシマヒヨウタンボクな  
どの低木林が多くみられ  
ます。



チシマノキンバイソウとマネキ岩



エゾノハクサンイチゲ



ウコンウツギ



チシマヒヨウタンボク(花と実)



ダイセツトリカブト

1,600~1,800m



ダケカンバ帯

- ・ダケカンバ
- トドマツ、エゾマツは全くありません。

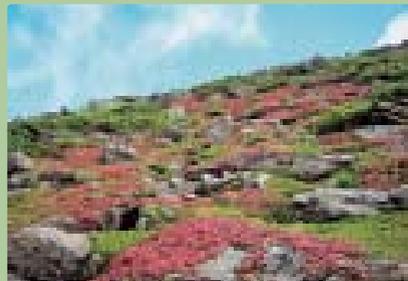
## 雪溪



黒岳山頂からは北鎮岳中腹にできる白鳥の雪溪が見られます。

## 風衝地(黒岳南西斜面)

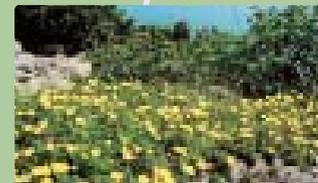
黒岳頂上から石室への  
南西斜面は、吹きさら  
しとなります。積雪  
は極端に少なく、低温  
乾燥の厳しい環境です。  
それらに耐えることが  
できるウラシマツツジ  
などの小低木が見られ  
ます。



8月下旬から紅葉するウラシマツツジ



イワウメ



メアカンキンバイ

## ●氷河期の落とし子

氷河期の頃は、北海道は大陸と陸続きであったといわれており、多くの生き物が行き来をしていました。温暖化とともに大陸から分離し、寒地性の生き物は高山へと逃れ、現在では高山帯にのみ生息しています。代表的なものは、ナキウサギやウスバキチョウなどです。



ナキウサギ



ウスバキチョウ  
とコマクサ  
(7月)

さらに先へ進むと…

## 黒岳石室(いしむろ)

雪田は風下や凹地など積雪の多い所にできます。黒岳石室周辺では、8月でも雪が残り、豊富に水が供給され美しいお花畑が展開します。1923(大正12)年に建設され、現在も大雪山登山の拠点として宿泊、休憩に利用されている避難小屋です。バイオトイレも完備しています。

- ◆宿泊 ¥2,000
- ◆テント場使用料 ¥500
- ◆シュラフレンタル ¥1,000  
(トイレ利用協力金¥200含む)



石室外観

黒岳石室

登山道



エゾコザクラ(7月中旬)



ミヤマリンドウ(7月下旬)



エゾツガザクラ(7月下旬)



チングルマ(7月中旬)

## ●鳥も垂直分布?

植物同様、鳥もその生息地は一樣でなく、季節的、植生環境的、さらに高度による垂直分布的に、観察される野鳥の種類は異なってきます。黒岳でも、針広混交林帯、ダケカンバ帯、ハイマツ帯などによって見られる野鳥も変わってきます。なかなか姿を見つけることは難しいですが、枝先などをよく観察してください。



クマガラ  
(山麓)



エゾライチョウ  
(五合目付近)



ノゴマ  
(山頂付近)